広報かしわ
8
August 2024

kashiwa

柏市が皆さまにお伝えしたいこと

伝承する者たち
～伝統も、思いも～

【注目情報】

P11 柏駅前空間に関するアンケートにご協力を

柏市
KASHIWA CITY

ワクワクを、もっと。

柏70 ナナマル

柏市は今年、市制施行70周年。
思い出に残る特別な年にしたくて、
いろいろな企画を考えました。
毎月ご紹介していきますので、お楽しみに！
驚きやワクワクがいっぱいの
これからの柏にご期待ください。

柏市制施行70周年及び
只見町ふるさと交流都市締結30周年記念

只見線貸切ツアーを開催！

秘境ローカル線として人気の只見線で、
日本に10カ所しかないユネスコエコパークに登録されている
「自然首都・只見（福島県）」の絶景を満喫しよう！

TADAMI LINE 2024.9.28-29 TOUR

只見（ただみ）線貸切ツアー

9月28日(土)～29日(日)　**募集人数** 42人（応募者多数の場合は抽選）

ツアー参加費 大人25,000円、小人18,000円（小学生以下）

＊柏市から福島県までの間は往復バスを利用、一泊3食付き、宿泊ホテル：季の郷　湯ら里

柏市制施行70周年の特別な企画や楽しいイベントが盛りだくさん！

只見線の貸切運行

- 特別貸切のキハ111系・112系で、只見駅から会津柳津駅を運行
- 全国屈指の秘境路線で只見川や雄大な山々が織り成す絶景を満喫

自然首都只見　水の郷うまいもんまつり

- 只見町の郷土料理や各地域のうまいもんを味わう
- 只見町民の皆さんと交流しよう

只見町ふるさと交流都市30周年の特別企画でお得にお買い物を！

観光アプリ「只見なび」の加盟店で使える
クーポンプレゼント！
2,000円
8月1日(木)から　先着500人（柏市民限定）

詳しくは只見町のホームページで

詳しくは市のホームページで

つづくを、つなぐ。

70 Anniversary 柏市制施行70周年

柏市 KASHIWA CITY

広報かしわ 2024年（令和6年）8月号

CONTENTS～目次～

4 特集
伝承する者たち　～伝統も、思いも～

10 Pick Up（ピックアップ）～市の新しい情報などをお知らせします～
物価高騰支援の給付金を支給（P10）
令和7年4月採用　市の職員を募集（P10）
柏駅前空間に関するアンケートにご協力を（P11）
自転車乗車用ヘルメットの購入費の一部を補助（P12）
手賀沼花火大会の交通規制にご協力を（P12）
児童手当の制度が一部変更（P13）
パリオリンピック開幕！　ホームタウンチームから世界の舞台へ（P15）　ほか

16 Information（インフォメーション）～情報コーナー～

【連載】
27 かしわレシピ♪
30 潜入!!　工事現場　途chuアフター
31 Kashiwa Photo Diary ～まちの出来事を写真とともに～
32 かしわ愛を込めて　ふるさと産品お届け便

市長のスマイル通信 vol.31

自転車ヘルメットの購入費を助成 命を守る取り組みです

昨年4月から、年齢を問わず全ての自転車利用者にヘルメット着用の努力義務が課されましたが、その着用率はあまり伸びていません。

警察庁の発表によると、昨年1年間の自転車乗車中の事故による死亡者の約半数が頭部の損傷によるもので、うち約9割のかたがヘルメットを着用していませんでした。また、過去5年間の事故で自転車乗車中にヘルメットを着用していなかったかたの致死率は、着用していたかたに比べおよそ1.9倍も高くなっていることから、事故による被害を軽減するためには頭部を保護することがとても重要です。

そこで市では、8月から自転車乗車用ヘルメットの購入費の一部を助成します。販売協力店での購入のほか、インターネットで購入した場合にも助成の対象となります。ヘルメットの着用にあたっては「髪形が崩れる」「持ち歩くのが大変」といった声も聞きますが、やはり命には代えられません。

皆さん一人一人が交通事故に遭わないための安全行動を心掛けていただくことはもちろんですが、ご自身やご家族の大切な命を守るためにも、この助成制度をご活用いただきつつ、自転車に乗る際にはぜひヘルメットの着用をお願いしたいと思います。

柏市長 太田和美

※詳しくは本誌P12をご覧ください

はがき・ファクスなどの記入内容　①希望する講座・催し名 ②郵便番号・住所 ③氏名（ふりがな） ④年齢 ⑤電話番号※電話が困難なかたはファクス番号⑥（往復はがきの場合）返信面の宛先

掲載情報の見方　時＝とき 所＝場所 対＝対象 定＝定員 内＝内容 講＝講師 費＝費用 持＝持ち物 申＝申し込み 交＝交通 他＝その他 問＝問い合わせ ●費用で特に記載のないものは無料 ●対象や定員に制限のないものは、どなたでも参加可

本誌掲載の二次元コードについて、アクセス解析のためにCookieを使用しています。アクセス解析は匿名で収集しているため個人を特定するものではありません。この機能はCookieを無効にすることで収集を拒否することができます。

伝承する者たち
～伝統も、思いも～

市には、古くから残る文化遺産が数多くあります。今号では、先人たちから受け継いだものを大切にし、それらを守りつなぐ地域の皆さんの思いに迫ります。

【問い合わせ】
文化課
☎7191－7414
FAX7190－0892

皆さんは自分の住んでいる地域にある伝統や文化を知っていますか。市では、歴史的な建造物や美術作品だけでなく、地域の伝統行事や自然環境も含めて、「文化遺産」と定めています。その数は、現在把握しているものだけでも市内で3万9千件を超え、今も増え続けています。

その中には、環境の変化や担い手不足などにより、継続が危ぶまれているものもあります。しかしそういった状況下でも、市内には先人たちから受け継いだ思いを大切にし、文化遺産を守り続けている団体が数多くあります。

例えば篠籠田地域には、江戸時代から続く「篠籠田の三匹獅子舞」の伝統行事を守る保存会のかたがたが、風早南部地域には、地域の自然や歴史、文化などを、かるたという形で後世に語り継ぐかたがたがいます。

ここでは、その2つの団体を中心に、柏の文化遺産の伝承に力を注ぐかたがたにお話を伺いました。

300年以上続く伝統
篠籠田の三匹獅子舞

市の文化遺産の中でも歴史がある「篠籠田の三匹獅子舞」。長く受け継がれてきたその背景には、たくさんのかたの努力がありました。

篠籠田の三匹獅子舞
保存会会長 谷川善昭さん

古くから伝わる伝統行事

篠籠田の三匹獅子舞は、五穀豊穣（ほうじょう）を願い、毎年8月16日に行われる地域の伝統行事で、江戸時代の徳川綱吉将軍の頃に始まったといわれています。

今からちょうど50年前に「篠籠田の三匹獅子舞保存会」が発足。それ以降、三匹獅子舞は保存会により守り継がれてきましたが、現在に至るまでには、伝統の存続のために乗り越えてきた困難がありました。

守り、未来へつなぐことを第一に

獅子の舞手は代々、篠籠田地域の中でも、限られた地区に住む人の間で受け継がれてきました。しかし、保存会の会員の高齢化などによる担い手不足から、地区限定での舞手の選任には限界がありました。長年の慣習を変更することへの葛藤の中、先代からつないできた舞を続けていくため、舞手を選任する地区を広げる決断をした保存会会長の谷川さん。

現在、三匹獅子舞の一番手を担う「女獅子」を舞うのは、それまで舞手になれなかった地区に住む武藤勇作さんです。武藤さんは小学3年生から、獅子舞が登場する前のお清めの役割を担う「猿舞」に参加していました。共に行事を続けてきた武藤さんになら女獅子を任せられると、踊りも谷川さん自身が伝授しました。

「武藤さんのように、三匹獅子舞に愛着を持ち、受け継いでくれる若者が増えてほしい」と谷川さんは願います。

大人から子どもへと伝承は続く

武藤さんと三匹獅子舞との出会いは柏第七小学校の「伝承クラブ」。このクラブの子どもたちは三匹獅子舞の中で、「猿舞」や、しの笛による「お囃子（はやし）」に参加しています。

クラブの卒業生の中には、武藤さんのように、大人になってからもさまざまな形で三匹獅子舞に参加し、子どもたちに伝統文化の魅力を伝えているかたがいます。そうしてこの三匹獅子舞が、次の世代へと伝承されていくのです。

期待に応え願いを込めて舞い続ける

今も昔も舞を愛する
武藤勇作さん

三匹獅子舞には、小学3年生の時に伝承クラブへ入ってから毎年参加しています。当時、さまざまな世代のかたが優しく教えてくれて、楽しく練習したことを覚えています。

子どもの頃から憧れていた、女獅子の舞手として声を掛けてもらった時は、とてもうれしかったです。新たな挑戦の先駆けとなる責任も感じましたが、それでも保存会の人たちの期待に応えたいという思いから引き受けることを決めました。

私の舞を見て、地元の伝統や文化に興味を持つかたが増えていき、三匹獅子舞が守り継がれることを願い、これからも舞い続けます。

美しく舞う「女獅子」

知ると面白い！

三匹獅子舞の流れ

1 猿舞

最初に登場するのは、キツネや猿、ひょっとこなどのお面で表現される猿舞。踊りながら塩をまき、場を清める。

2 お囃子（はやし）

伝承クラブの子どもたちを中心に、およそ20人でしの笛を演奏。華やかな笛の音が、舞を盛り上げる。

3 獅子舞

女獅子、中獅子、大獅子の順で登場。それぞれ異なる性別や年齢を舞で表現。

4 精進返し

三匹の獅子が集結し、クライマックスを迎える。それぞれの個性を表現しながらも息のぴったり合った舞は、迫力満点。

この魅力を動画で紹介

もっと知りたい！

篠籠田の三匹獅子舞

今年も開催される篠籠田の三匹獅子舞。皆さんに知ってほしい知識を紹介します。

獅子の違いを見てみよう

共通 羽根＝軍鶏（しゃも）の羽根　土台＝キリの木　ひげ＝馬の毛

女獅子（めじし）

ゆったりとあでやかに舞う女の獅子

角 1本　ひげ 無　性別 女

中獅子（なかじし）

たけだけしい舞で若さを表現する成年獅子

角 渦巻く2本の角　ひげ 有　性別 男

大獅子（おおじし）

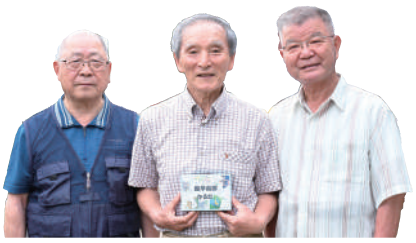
花に酔いしれるようなしぐさの舞「花食い」を踊る壮年の大獅子

角 六角すいの2本の角　ひげ 有　性別 男

柏の新しい文化
風早南部かるた

風早南部地域への郷土愛が詰まったこのかるた。地域の魅力を未来へつなぐため、チャレンジし続けるかたがたがいます。

小学校で行われたかるた取り



風早南部かるたプロジェクトチーム
代表の皆さん

地域の宝を次世代へ

昨年完成した「風早南部かるた」は、地域の豊かな自然や歴史、文化が題材になっています。かるたを通してこの地域の宝を知ってもらい、次世代に残していくため、風早南部かるたプロジェクトチームが地域の皆さんの協力のもと制作しました。

楽しみながら学べるかるた

このかるたの面白いところは、通常のかるたとは異なり、同じ文字で始まる札が複数枚入っていること。地域には同じ文字から始まる文化がそれぞれ1つとは限りません。例えば、「か」の札は5枚、「た」の札は6枚もあります。これにより、最初の文字だけで判断して絵札を取ることはできません。また、絵札の裏には文化遺産の紹介文が書いてあり、かるた取りを楽しみながら、地域のことを見て聞いて学べる作りになっています。

みんなで作った努力の結晶

このかるたは、地域から募集した1,300以上のアイデアを基に制作されました。絵札のイラストのほとんどは、地域のかたが題材の場所へ実際に足を運んで描き、読み札は沼南高柳高校書道部の生徒が書き上げました。多くの地元団体や市などの支援もあり、4年の歳月をかけて完成。

地域の小・中学校、高等学校、特別支援学校の子どもたちや、ご年配のかたがみんなで協力して作り上げたものが、世代を超えて楽しまれ、受け継がれていく――。そこにかるたを作った狙いがあります。

かるたが目指す次のステージ

風早南部地域の自然や歴史、文化を伝承したいという願いは、かるたの完成だけでは達成されません。地域の魅力を次世代に伝えていきたいと思ってもらうことが、次の目標です。

そこで現在、かるたの題材地をまとめた絵地図を作り、それらを巡るツアーを企画中とのこと。このかるたが「たすき」となり、次世代に願いをつないでいく。郷土愛を原動力に、プロジェクトチームの挑戦は続きます。

学校や
近隣センターで
活躍中！
販売もしています

僕たちが作ったこのかるたを、みんなで楽しんでほしい

かるたに描いたコミュニティカフェ「茶論（さろん）」は、僕が習字を習いに毎月通っている場所です。そこにいる人たちは、僕にとっておじいちゃんおばあちゃんのような存在です。みんなで仲良くしているいつもの様子を描きました。たくさんの人にこのかるたで遊んでもらいたいです。

絵札のイラストを描いた
綱川東吾（とうご）さん

伝え続け、守りつなぐ者たち

獅子舞やかるたの他にも、市には、地域の伝統を守り、つないでいくための活動を行っているかたがたくさんいます。ここでは、7人の活動とその思いを紹介します。

手賀沼の環境資源を学びに活用

EDGE HAUS（エッジハウス）
油原祐貴さん

手賀沼の環境資源を生かした自然体験学習などを行う「手賀沼スクールヤード」の企画・運営を行っています。このプログラムを通して、手賀沼の自然や歴史、産業、文化の未来を守る活動に関わるきっかけとしてほしいです。

かかし作りで農業体験

地元の子どもたちと共に民話を語り継ぐ

増尾町会民話の里づくりプロジェクト
押味（おしみ）富士子さん

増尾地域に伝わる昔話を語り継ぐため、地元の学校と連携し、歴史講演などのイベントを開催しています。民話を読み解くとその町の文化や歴史が見えてきます。自分が住む地域の事を知ることができて面白いですよ。

小学生が語り部として民話を披露

魅力的な柏の歴史を知ってほしい

kamonかしわ
インフォメーションセンター
稲葉素恵子（そえこ）さん

柏の歴史を若い世代にも知ってもらうため、伝統文化や歴史の動画を配信したり、歴史スポットを巡るお出かけマップを作ったりしています。子どもたちに向けて、市の文化財「篠籠田の三匹獅子舞」を紹介するパンフレット作りをレクチャーしました。

小学生に文化財のパンフレット作りを伝授

皆さんと共に市が取り組むこと

守るべきものを限定しない

令和5年7月、「柏市文化財保存活用地域計画」が文化庁に認定されました。この計画では、文化財指定の有無を問わず一体的に「文化遺産」と定め、それらを守る活動も含めて、保存・活用の対象としています。

市民の皆さんと共に、柏の魅力を次世代に残すため、市では5つの方針を定めています。

文化遺産を守る5つの方針

①しらべる・価値をみいだす
調査や研究成果の情報整理、データベースの構築

②うけつぐ
歴史文化を継承するための担い手づくりの促進

③まもる
収蔵施設の整備、災害対策

④みがく
保存・活用に関する広域連携の促進、市民講座の開設

⑤ひろめる・つながる
歴史文化を生かしたブランディング事業の実施、情報発信の強化

歩いて柏の魅力を再発見

柏観光プロダクション　高橋浩之さん

文化や自然を楽しむフットパスツアー

柏の歴史や文化、観光資源を楽しみながら歩くフットパスツアーを開催しています。昔からあるありのままの自然を巡り、ガイドの解説を聞いて学ぶことで、皆さんに柏の魅力を再発見してもらえたらうれしいです。

民話を通して柏をもっと好きになる

かしわ民話保存会　中島貴洋（あつひろ）さん

地域の民話や歴史を子どもたちに紹介

柏の民話を幅広い世代に紹介しています。不思議な話、怪談話、落語のようなオチのある話、歴史上の人物に由来する話、ムジナやキツネに化かされた話。民話を知れば、今よりもっと柏が好きになりますよ。

五感で歴史・文化を感じる

手賀沼アグリビジネスパーク事業推進協議会　鈴木亮平さん

道の駅しょうなんを拠点に、観光ガイドブックの作成、歴史サイクリングツアーなどを行っています。手賀沼周辺の歴史や文化を実際に目や肌で体験してもらい、多くのかたに手賀沼の魅力を感じてほしいです。

歴史スポットを巡るサイクリングツアー

柏を「屋根のない博物館」に

柏歴史クラブ　浦久淳子さん

戦争遺跡「秋水燃料庫」の見学

街全体を「屋根のない博物館」とみるエコミュージアムの考え方を取り入れ、講演会・歩く会の開催や、市内戦争遺跡の調査・保存活動などを行っています。埋もれた地域の歴史を発掘し、楽しみを見つけてみませんか。

大切にしたいと思うもの、その全てが文化遺産

私は柏の文化財の調査に携わっています。柏には古くから残る歴史や文化が数多くあり、それらを守るために尽力しているかたがたくさんいます。

平成31年度に文化財保護法が改正され、指定や登録がされた文化財だけでなく、守りたいものを自分たちで選んでいくことも重要であるという考えが示されました。そこで、文化財の保存と活用を行う団体や、文化財保有者に聞き取りをしたところ、後世に残したいものとして多く挙げられたのは、地域の祭りや自然、風景など、私たちが慣れ親しんだ空間でした。小川のせせらぎや思い出の公園、迫力のある舞や華やかな笛の響き――。市では、これら全てをまとめて「文化遺産」と呼んでいます。

皆さんの日常生活に溶け込んでいる何げない要素の一つ一つが大切な文化遺産です。そんな柏の宝を未来へつなぐため、柏市は文化遺産を、その伝承に力を注ぐかたがたと共に守っていきます。

柏市文化課
谷口 友季さん